

『食で考える日本社会』教師用指導手引き

教師用ガイドの見方

ここでは各章を指導する際のポイントや留意点をご紹介します。

■本書の特徴・ねらい

本書は「食」というコンテンツを重視し、「食」を通じて、日本語と日本社会を学ぶことを目的としています。食をテーマに「読む」「話す」「活動する」「意見を述べる」などの多様な活動を行い、日本語を使いながら、食と社会の理解を深め、人とつながりを持ち、自分の意見を発信・共有することができるようにデザインされています。これらの活動を通じて、日本の社会や文化への理解を深めるとともに日本語を使用することへの自信をつけることができるでしょう。本書には語彙や読み物に英訳が付いているため（ダウンロード）、中～上級以外の学習者でも英文を読んで内容を理解することができます。

■本書の対象者

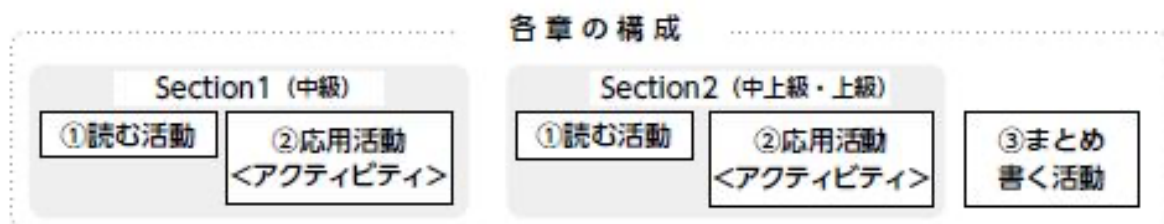
主には、中級～上級の学習者が対象となります。各章が二つのセクションに分かれていて、それぞれのセクションは日本語のレベルが異なりますので、レベルに合わせてお使いいただけます。

- ▶ Section1 = 中級 (N3 レベル)
- ▶ Section2 = 中上級・上級 (N2レベル以上)

■本書の構成

本書は10章のテーマで構成されます。順番に進めてもいいですし、授業の目標や学習者の興味に応じて、章を選んで進めることもできます。二つのセクションは日本語のレベルが異なるので、授業ではSection1、2の両方を使うこともできますし、学習者の興味、言語のレベルなどに応じて、適宜選んでお使いください。

- ▶ 中級の学習者の場合：Section1を中心に、Section2は教師が概要のみ紹介する
- ▶ 上級の学習者：Section1は速読で簡単に内容を話し合い、Section2を中心に扱う
- ▶ 初級の後半（N4レベル程度）の場合：本文の英訳（ダウンロード）を使って読む



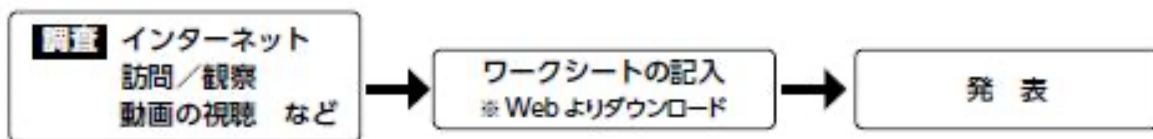
①読む活動

- ▶ Let's Talk : そのセクションテーマや本文について学習者の興味を喚起します。
- ▶ 本文 : 本文を読み、そのテーマについて知識を深めます。音声が付いています。
- ▶ 内容確認 : 本文の内容についての質問に答え、本文理解の確認をします。
- ▶ 考えよう : そのセクションの本文について学習者自身が多面的に考えたり、自分や自国のことと比較をしたりして、問題意識を持ち理解を深めます。
- ▶ 文法表現 : Section1では、本文で扱っている中級文法の項目と例文を提示しています。
- ▶ ことばコーナー : 食にまつわることばや漢字、慣用句などを問題形式で紹介しています。

②応用活動 <アクティビティ>

各セクションの「応用活動」としてそのテーマや本文の内容と関連した<アクティビティ>を行います。各活動を行ったあとは、調査の成果物を授業やクラスの規模に合わせて、適宜発表してください。活動の内容と目標はp.99-100の「アクティビの活動内容/目標」の表をご参照ください。

◎活動の手順と注意



- ▶ 応用活動として各章でいくつかのアクティビティを挙げてありますが、全部する必要はありません。学習者の興味や関心に応じて、1つか2つ選んで行うとよいでしょう。
- ▶ アクティビティは、グループでも個人でも行うことができます。適宜クラスのサイズに合わせて活動を行ってください。
- ▶ ほとんどのアクティビティには「ワークシートの記載例」を掲載しています。それをふまえて活動をするとういでしょう。また、「例」は著者による作例も多く含まれていますので実在するものではない場合もあります。ワークシートはダウンロードでご利用いただけます。
- ▶ 調査をする際には、必ず出典の形式を確認し、明記することを学習者に意識づけましょう。
- ▶ 活動の難易度は「★★★」で示してありますので、学習者のレベルに応じて参考にしてください。
- ▶ アクティビティを宿題にするときは、事前準備のために授業の最後に5～10分ぐらい費やし、ワークシートの内容の説明と意味の確認をするとよいでしょう。

- ▶ 各アクティビティには検索ワードの例がありますが、最初にクラスで検索ワードのブレインストーミングをしてもよいでしょう。また、ポップアップ辞書の使い方などのオリエンテーションをして練習するとよいでしょう。
- ▶ 調査の成果物などは、クラスで発表しましょう。発表の際には「発表の表現 (p.98)」を参照してください。また、クラスで共有するだけでなく、個人情報に配慮し、問題のないものはオンラインで外部に発信することを奨励するとよいでしょう (SNS、動画等)。

③書く活動<まとめ>

章の最後に、読む活動、応用活動をふまえて自分の意見や考えを書く練習をします。学習者が自分の考えを文章にすることにより、取り上げたテーマについてより深く理解し、自分の意見を明確にすることができます。教師も学習者の学びを個別に確認でき、内容だけではなく言語学習の観点からも、コメントやフィードバックをすることで、間違いに気づかせたり、日本語の表現力の向上が期待できます。三つの問いがありますので、学習者のレベルや興味によって全て書かせてもいいですし、興味ある設問を一つ選んで書かせてもよいでしょう。章のテーマと関連して、学習者がほかに書きたい内容があれば提案させましょう。作文の長さは教師が事前に伝えておくともよいでしょう。

章 Chapter		Sections
1	食べよう和食 Let's eat <i>Washoku</i>	1. 和食とわたし <i>Washoku and Me</i> 2. 和食は食卓から姿を消すのか <i>Is Washoku Disappearing from Homes?</i>
2	食と地域の活性化 Food and Community Revitalization	1. 郷土料理の多様性 <i>Diversity of Regional Cuisine</i> 2. 食による町おこし <i>Town Revitalization through Food</i>
3	食と歴史 Food and History	1. 江戸時代のファストフード <i>Fast Food in the Edo Period</i> 2. 明治時代の和製洋食 <i>Japanese Western Dishes in the Meiji Period</i>
4	食とグローバル化 Food and Globalization	1. 人類は麺類 <i>Mankind is Noodlekind</i> 2. スシ・ポリス <i>"Sushi Police"</i>

5	食とメディア作品 Food and Media Arts	1. 食とアニメ・マンガ Food in Anime and Manga 2. 食とドラマ・映画 Food in Dramas and Movies
6	食と家族とジェンダー Food, Family, and Gender	1. 我が家の味 The Taste of Home 2. 「男飯」と「おふくろの味」 “Dude Food” vs. Mom’s Home Cooking
7	食と教育と格差 Food, Education, and Social Disparity	1. 学校給食の思い出 Memories of School Lunch 2. こども食堂と地域のつながり Kodomoshokudo and Community Links
8	食と健康 Food and Health	1. 長寿と発酵食品 Longevity and Fermented Food 2. 新しい食の形：もどき料理 New Style of Food: <i>Modoki Ryori</i> (Mock Food)
9	食と労働 Food and Labor	1. 変化するコンビニと外国人アルバイト Changing Convenience Stores and Influx of Foreign Workers 2. 「おもてなし」と「お客様は神様」 <i>Omotenashi</i> and “The Customer is Always Right”
10	食と社会の課題解決 Food and Solutions to Social Issues	1. 食品ロスとSDGs Food Waste and the SDGs 2. 食のソーシャルビジネスと社会課題の解決 Food-based Social Enterprises and Solutions to Social Issues

◎応用①：SDGs

本書で扱っている「食」のテーマは、さまざまな形でSDGsの社会課題と関わっています。

「SDGs」(Sustainable Development Goals / 持続可能な開発目標)とは、「我々の世界を変革する：持続可能な社会のための「2030 アジェンダ」」を指し、2015年に国連総会で採択されました。SDGsは様々な地球規模の課題を取り上げ、わたしたち一人一人が取り組む必要のある目標を掲げています。

各章のテーマがSDGsの課題とどのように関わっているかディスカッションし、自分にできることを提案し、食を通じた社会貢献について学習者が考える姿勢・態度を育成します。



[1] No Poverty [2] Zero Hunger [3] Good Health and Well-Being [4] Quality Education [5] Gender Equality
 [6] Clean Water and Sanitation [7] Affordable and Clean Energy [8] Decent Work and Economic Growth
 [9] Industry, Innovation, and Infrastructure [10] Reduced Inequalities [11] Sustainable Cities and Communities
 [12] Responsible Consumption and Production [13] Climate Action [14] Life Below Water [15] Life On Land
 [16] Peace, Justice and Strong Institutions [17] Partnerships for the Goals

■本書とSDGs との関連

章	関連するSDGs の目標
第1章	11.4文化遺産の保護・保全の努力
第2章	9.産業と技術革新の基盤を作ろう、11.住み続けられるまちづくりを
第3章	3.すべての人に健康と福祉を、10.人や国の不平等をなくそう
第4章	10.人や国の不平等をなくそう、11.4文化遺産の保護・保全の努力
第5章	10.人や国の不平等をなくそう
第6章	3.すべての人に健康と福祉を、12.つくる責任つかう責任
第7章	5.ジェンダー平等を実現しよう
第8章	1.貧困をなくそう、2.飢餓をゼロに、3.全ての人に健康と福祉を、4.質の高い教育をみんなに
第9章	8.働きがいも経済成長も 10.人や国の不平等をなくそう
第10章	1.貧困をなくそう、 2.飢餓をゼロに、 12.つくる責任つかう責任 17.パートナーシップで目標を達成しよう

◎応用②：料理にチャレンジ

本書には、6つの料理レシピを掲載しています。どれも簡単に美味しく作れるものなので調理に挑戦する活動を加えてみましょう。「食レポ」をする場合はp. 55の「食レポの表現」を参照するように指導してください。

■授業時間の目安

本書は、授業の目標や学習者の興味に応じて、章やセクションを選んで進められるようになっています。中級の場合、各章の授業時間の目安は250 ～ 300 分です。1学期が15週間の場合、最低5～6章カバーできます。

▶中級の場合：250-300 分（1 学期15 週間の場合）

Section 1		Section 2		
45分	60分	45分	60分	60分
読む活動	応用活動 <アクティビティ>	読む活動	応用活動 <アクティビティ>	書く活動 <まとめ>

▶上級の場合：180分（90分×2）で1章をカバーします。

【各章の使い方】

各章には、応用活動としてアクティビティがあります。アクティビティは事前に宿題として出しておき、当日は発表ができるように指示しておくといでしょう。PowerPointなどを使ってもよいですし、LMS（学習管理システム）のディスカッション機能を利用し、ワークシートで調べた内容を事前に提出させ、相互にコメントさせてもよいでしょう。グループである場合は、宿題に加えて、授業中にグループでの相談、発表準備時間をある程度（例えば10分～15分）取るとスムーズに行えます。

	Section	活動	指導のポイント
第1章 食べよう 和食	Section1 和食とわたし	読解テキスト	<p>【全体の目標】 本章では日本料理とはどのようなものか、学生のもっているイメージから出発します。そして、伝統的な家庭料理としての和食とはどのようなものなのか、また和食がどのように変化しているのかを、テキストの情報や自分達の調査を通じて検討し、考えを深めていきます。</p> <p>p. 012 【Let's Talk】 まず学生達に日本料理のイメージについて話し合ってもらいます。そして、テキスト中に出てくる「主食」「一汁三菜」などの意味を理解してもらってからテキストを読んでいきます。</p> <p>【テキスト】 テキストでは海外で人気の日本料理の例、日本の家庭料理の例、そして世代間の違いなどについて書かれています。 テキストの中では「日本料理」は日本で食べられている料理全体を指しており、「和食」は、その中の伝統的な家庭料理の意味で使っています。ただこの二つの言葉を同じ意味で使う人も多く、厳密な違いについては、学生から質問が出た場合のみ触れるということでもよいと思います。 テキストの「一汁三菜」ですが、日本の家庭で出される料理は、必ずしも「一汁三菜」になっているわけではないので、食卓で食べられる料理の多様性を確認しつつ、ごはん、汁物、そして、いくつかのおかずが出てくる、といったイメージを示すとよいと思います。 おかずの内容に関しても、和風だけでなく、洋風、中華風などさまざまなおかずと組み合わせている例を写真や動画を使って紹介するとよいでしょう。</p> <p>p. 013 【考えよう】 1) では学生自身の国の伝統食、そして世代間の伝統食の違いについて考えてもらうことで、テーマの捉え方をひろげ、比較して考えることを促します。学生の中には自分自身の国や地域の伝統食がどの程度食べられているのか、意識したことがない、わからないと感じる人もいるかもしれません。そのような場合は自分で調べてみるように指示してもよいでしょう。 2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。 [視点を変えて] ではテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、「例えば、日本食でよく使われる調味料はどうでしょうか」など教員が問いかけてみてもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 日本料理、一汁三菜に関する画像、動画等</p>
		アクティビティ	<p>p. 014-015 【アクティビティ】 アクティビティ①は担当者（あるいは担当グループ）を決め、項目別（性別、年齢別）に結果を表に記入させてもよいでしょう。項目はあくまでも</p>

		<p>例ですので、学生の背景や興味に応じて別の項目に変えてもよいでしょう。</p> <p>アクティビティ②はパワーポイントやスライドを使って発表させるとよいでしょう。発表の後、クラスで学生達がお互いにコメントをし合う際の表現例を示すとよいでしょう（例：「クリエイティブ」「健康的」「おいしそう」「食欲をそそる」など）。また、実際に学生に料理を作ってもら場合は、器選びについてもイメージがわくように、例を示しておくといよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 アクティビティ①国内の和食の人気ランキング（アンケート結果） アクティビティ②一汁三菜献立レシピ（様々な例があるので学生はイメージしやすいです）</p>
Section2 和食は食卓から姿を消すのか	読解テキスト	<p>【Section2の目標】 Section2では、和食の魅力について考えるとともに、家庭で和食を食べる機会が減っている原因、和食の変化について、クラスで考えを深めていきます。</p> <p>p. 016 【Let' s Talk】 1. の「キーワード3つ」の活動は簡単にできるので、国別で学生に言ってもらってもよいでしょう。中国の学生の回答例：餃子「おいしい」「材料のバランスがよい」「一緒に作るので人をつなぐ」。 2. の「和食離れ」では、言葉のイメージを考えさせるとともに、「～離れ」について食以外にも取りあげるとよいでしょう（お酒離れ、車離れ、恋愛離れ…）。これらの点は、テキストを読んだ後で「考えよう」の3)に出てきますので、ここでは簡単に触れる程度でよいでしょう。</p> <p>【テキスト】 前半部分は和食の魅力について述べられています。テキストで魅力として挙げられている点を学生はどう思うのか、また、挙げられていない点で学生が魅力だと思う点についても話し合うといよいでしょう。 後半では和食離れについて述べています。さまざまな要因が挙げられていますが、具体的なイメージがつかみにくいかもしれません。学生に問いかけて考えてもらったり、情報を補足したりするとよいでしょう。 また、後半ではユネスコの世界無形文化遺産に登録された話が少し出てきます。時間があれば、ユネスコでは和食のどのような点が評価されたのか学生に調べさせたり、背景情報を補足したりするとよいでしょう。</p> <p>p. 017 【考えよう】 1) では和食離れの理由を学生に自由に考えさせてみましょう。 2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。 3) では、[Let' s Talk] で取り上げた、食以外の「～離れ」について考えてもらいます。ディスカッションでは、その現象が起きる理由を考えてもらうといよいでしょう。</p>

			<p>〔視点を変えて〕では、テキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、伝統的な和食に限らず、学生が知っている伝統料理だったらどう思うか、教員が問いかけてみてもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 省手間の和食レシピ 一汁一菜のレシピ</p>
		アクティビティ	<p>p. 017-018 【アクティビティ】</p> <p>アクティビティ①は、まず日本の年中行事と行事食（行事の時に食べるもの）について調べさせましょう。そして行事食の意味や由来を調べて発表させましょう。</p> <p>アクティビティ②は自分の思い出について簡単に発表してもらいます。</p> <p>アクティビティ③の「和食離れ」の記事は内容が重なっているものも多いので、教員がいくつか異なる角度から書かれたものを事前にピックアップし、記事を比較してもらってもよいでしょう。記事を詳しく発表すると時間がかかるので、制限時間を3分程度にして簡潔に紹介するように指示するとよいでしょう。</p> <p>アクティビティ③は、半数の学生には「和食離れ」について調べる担当とし、残りの学生は広く「～離れ」について書かれた記事を調べる活動にしてもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 年中行事を紹介しているサイトや動画 和食離れの記事</p>
		まとめ	<p>p. 019 【まとめ】</p> <p>1) は章のまとめと学生の意見を書く練習です。</p> <p>2) は学生自身の地域における伝統食と人びとの関係について考える問いです。Section1を読まず、2だけ読む場合は、書く前にクラスでこのテーマについてブレインストーミングをしておくともよいでしょう。</p> <p>3) はSDGsと関連した問いです。あまり抽象的な提案ではなく、学生が日常的に、そして継続的にできることを考えてもらおうともよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 まとめ3) : SDGsの関連リンク（学校で使用することを目的としてわかりやすく書かれているものを選ぶともよいでしょう）</p>
第2章	Section1 郷土料理の 多様性	読解テキスト	<p>【全体の目標】</p> <p>本章では「日本食」が地域によって多様であることから出発し、Section1では様々な地域の食への関心を高めていきます。そして、Section2では、地域の多様性、過疎化する地域の食を通じた活性化について考えを深めます。</p> <p>p. 020 【Let's Talk】</p>

		<p>まず地図を使って日本の様々な地域名と位置を確認し、学生の地域への興味を喚起します。もし日本の地域や地域名についてあまりよく知らない学生が多い場合は、写真や観光動画などを紹介したり、自分達で調べさせたりするとよいでしょう。</p> <p>【テキスト】 テキストでは北海道、大阪、長野、長崎の例が出されています。それぞれの写真や動画を用意しておくか、学生達に事前に調べさせるとよいでしょう。</p> <p>p. 021 【考えよう】 1) は地図を用いて答えてもらうとよいでしょう。また理由を挙げてもらうとよいでしょう。 2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。 [視点を変えて] はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。ここでは大阪人、東京人、京都人を例に挙げていますが、学生自身の旅行先での経験をもとに話させ、教員が日本人の例を補足してもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 各地の写真、観光旅行動画等 郷土料理の写真、動画等</p>
	アクティビティ	<p>p. 022-023 【アクティビティ】 アクティビティ①は学生達にオンラインのアプリを使ってクイズを作ってもらってもよいでしょう。 アクティビティ②はテキストの中では駅弁について触れていませんので、まず、地域の特色を反映した、有名な駅弁を紹介してから活動を始めるるとよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 各地の観光協会/観光情報サイト オンライン・クイズメーカー (Kahoot, Quizmaker等) ご当地グルメの写真</p>
Section2 食による 町おこし	読解テキスト	<p>【Section2の目標】 Section2では、少子高齢化の影響による経済縮小に関する課題を知り、食を通じた地域の町おこしの可能性と地産地消の重要性について考えを深めます。</p> <p>p. 024 【Let's Talk】 町おこしというと、日本では人口減少、過疎化、経済縮小といったイメージが浮かびますが、学生はそうしたイメージをつかみにくいかもかもしれません。そのため、補足情報として人口減少、過疎化のデータを紹介してもよいでしょう。</p>

			<p>【テキスト】 テキストで取り上げている町おこしの例については、地域性、食を通じた町おこしのイメージがわくように地図、写真、動画で補足したり、学生に情報をチェックさせたりするとよいでしょう。 テキストの後半で取り上げている「地産地消」という概念も、学生は最初、戸惑うかもしれません。そのような場合は、「地産地消」の流通と消費の図解を見せたり、学生の出身の町や国での「地産地消」の例を挙げさせながら考えてもらおうとよいでしょう。</p> <p>p. 025 【考えよう】 1) はまずは学生の個人的な経験を聞いたり、調べる時間を2,3分とるとよいでしょう。 2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。 [視点を変えて] はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。この問いでは、観光地の渋滞やゴミのポイ捨て、騒音など、悪影響についても気づくよう指導しましょう。さまざまな点のデータを必要に応じて補足できるように準備しておくといよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 食を通じた町おこしの事例集 人口減少、過疎化のデータ 観光地の問題に関する記事</p>
	アクティビティ		<p>p. 025-026 【アクティビティ】 アクティビティ①は日本国内の事例調査です。事例をオンラインで探すことは難しくありませんが、調べたことを簡潔にまとめて聞き手にわかりやすく伝えられるように、発表の形態をあらかじめ指示し、発表には制限時間を設けておくといよいでしょう。 アクティビティ②は学生の出身地域の食を通じた町おこしについて考える活動です。学生にはまず自分の出身地域の地図上の位置を聞き手に紹介してもらおうといよいでしょう。タスクシートの項目にあるように、単なる食のツアーにならないように、まちの魅力をどのように伝えるのかという点を考えさせることと、社会的な効果についても考えさせるようにしましょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 食を通じたまちおこしの事例集（国内、海外）</p>
	まとめ		<p>p. 027 【まとめ】 1) はSection1に対応しています。 2) はSection2に対応しています。アクティビティ②で調べた内容をもとにするとまとめやすくなります。 3) はSDGsと関連した問いです。あまり抽象的な提案ではなく、学生が日常的に、そして継続的にできることを考えてもらおうといよいでしょう。</p>

			<p>【使えるオンラインリソース例】 まとめ3) : SDGsの関連リンク</p>
第3章 食と歴史	Section1 江戸時代のファストフード	読解テキスト	<p>【全体の目標】 本章では日本の時代について簡単な知識を得て、食と歴史の関係を考えることを目指します。Section1では、江戸時代の人びとの食習慣を知ることを通じて、現在と過去の食の変化とつながりを考えます。 Section2では、明治時代の人びとが新しい食文化に触れることによって「伝統食」を強く意識するようになったこと、また、新しい食文化と伝統食との融合について考えていきます。</p> <p>p. 028 【Let's Talk】 まずは江戸時代の食生活（屋台）について学生のイメージを喚起します。歴史に苦手意識をもっている学生もいるかもしれませんが、浮世絵などを用いて、視覚的に当時の様子をイメージできるように補足するとよいでしょう。</p> <p>【テキスト】 江戸時代の背景や食習慣に関して浮世絵等を使って補足するとよいでしょう。 江戸の規模を想像させるために、例として、江戸時代の人口と同じぐらいの都市名を挙げるとよいでしょう。 当時と現代のつながりや差異がイメージできるように、当時と現代の屋台、居酒屋、料亭、高級飲食店などの画像を見せてもよいでしょう。</p> <p>p. 029 【考えよう】 1) は江戸時代の社会階層や食生活を知るだけでなく、現代の文脈に置き換えるとどのような意味があるのか、考えてもらうことが目標です。（p. 031のアクティビティ③ではこの点をさらに詳しく考えていきますので、応用活動をする場合は、ここではあまり時間をかけなくともよいでしょう。） 2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。 [視点を変えて] はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。特にコメントが出なければ、「出稼ぎ労働者」や「単身赴任」という言葉を紹介し、学生の国の状況について聞いてみてもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 江戸時代の様子を表した浮世絵の画像</p>
		アクティビティ	<p>p. 030-031 【アクティビティ】 アクティビティ①の活動前に、「伝統的な日本料理の店」とはどんな店か、クラスで確認するとよいでしょう。アクティビティ①は、実際に行って観察することを勧めます。店の外装、客の様子、料理などさまざまな点を観察させましょう。もし難しい場合はオンラインでできるだけ店の外装</p>

		<p>や内部、料理、食器、客の様子などの視覚的な情報が得られる店を探すように指示するとよいでしょう。</p> <p>アクティビティ②は、ネット検索になります。テキストにある検索ワードを用いることで、情報を探すのはそれほど難しくないでしょう。それぞれの項目を現代に置き換えて想像させることで、学生達はより身近に当時のことを理解することができるでしょう。</p> <p>発表ではできるだけわかりやすい言葉で聞き手に伝えるように指導するとよいでしょう。発展として、武士、商人、職人、農民以外に食肉業の人びとについて調べさせると、さらに社会の様々な階層が見えてくるでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 江戸時代の食生活や身分制度をわかりやすく説明したサイト 階級社会と食生活についての読み物サイト</p>
<p>Section2 明治時代の 和製洋食</p>	<p>読解テキスト</p>	<p>【Section2の目標】 Section2では明治時代の西洋化の流れの中での食の変化について考えを深めていきます。</p> <p>p. 032 【Let' s Talk】 テキストの絵を出発点として、明治時代の変化（食生活だけでなく、社会経済の変化）に興味をもってもらいましょう。</p> <p>【テキスト】 幕末から明治時代を描いた浮世絵を使いながら、当時の社会の変化について学生がイメージできるようにするとよいでしょう。 テキストで取り上げられている「牛鍋」「すき焼き」「和製洋食」（コロッケ、とんかつ等）は、テキストを読む前に料理の写真を見せておくと、学生のイメージがわきやすくなるでしょう。</p> <p>p. 033 【考えよう】 1) はそれまであまり考えたことがなかった「日本料理」の特徴が西洋料理との比較において強く意識されるようになったことを指しています。テキストの理解を踏まえて、学生達自身の異文化体験を通じた自文化の意識化について、具体的な経験を踏まえて話し合わせるとよいでしょう。 2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。 [視点を変えて] はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、西洋化による健康面のメリットとデメリットを考えさせてもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 幕末から明治時代を描いた浮世絵 和製洋食の画像や作り方の動画</p>

		<p>アクティビティ</p>	<p>p. 033-034 【アクティビティ】</p> <p>アクティビティ①は和製洋食を紹介するだけでなく、できれば実際に作って/食べてみて、感想を言う形にするとよいでしょう。</p> <p>アクティビティ②は、歴史的な情報が多いので、発表でパワーポイントを使う場合は、情報を詰め込まずに、写真とキーワードだけを載せ、わかりやすく、簡潔な発表になるように指示するとよいでしょう。</p> <p>Step2の年表は学生達の発表が歴史の流れとどのような関係にあるのか、俯瞰するうえで活用するとよいでしょう。</p> <p>年表は日本史の大まかな流れを知る上でも役立つので、時代の順番並び替えなどの簡単なクイズをしてもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 明治時代の歴史の概要がわかる教育サイト 料理レシピサイト</p>
		<p>まとめ</p>	<p>p. 035 【まとめ】</p> <p>1) はSection1、Section2のどちらにも使える質問です。p. 034の年表を含めて考えさせてもよいでしょう。</p> <p>2) はSection2の [考えよう] の「視点を変えて」の問いの答えをまとめる形です。</p> <p>3) はSDGsと関連した問いです。あまり抽象的な提案ではなく、学生が日常的に、そして継続的にできることを考えてもらおうとよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 まとめ3) : SDGsの関連リンク</p>
<p>第4章 食とグローバル化</p>	<p>Section1 人類は麺類</p>	<p>読解テキスト</p>	<p>【全体の目標】</p> <p>本章では、日本だけではなく、最近世界でも人気のラーメンとすしを例に食のグローバル化の影響について考えます。Section1では、日本の「国民食」ともいわれるラーメンの由来から始まり、海外進出について関心を高め、Section2では、今や世界各地で人気のすしを例に、食のローカル化を通じて、食をめぐる価値観の違いや文化の融合について考えを深めることを目指します。</p> <p>p. 036 【Let's Talk】</p> <p>麺類は様々な国で食されているので、比較的答えやすくクラス全体が盛り上がる質問です。「麺類」という言葉も定着しやすいです。カップラーメンやインスタントラーメン、地域のラーメン専門店、日本料理店などの答えが期待できます。ラーメンを食べたことがない学生がいるかもしれません。</p> <p>【テキスト】</p> <p>ラーメンブームを描いた短い動画はネットにたくさんあります。導入で見てください。(例: 「なぜ今アメリカで日本のラーメンが人気なのか」)</p> <p>ラーメンの歴史を探ることで、3章で学んだ日本の時代の流れをおさらいできます。そして、ラーメンの人気の日本だけでなく、グローバルな現象であることを考えていきます。</p>

		<p>日本全国のラーメン店の軒数は、様々なウェブサイトで紹介されていて、多少違いがありますが、軒数の多さを想像できればよいでしょう。ラーメンブームが起きた原因を海外と日本で比べることで、味覚や嗜好の違い、多様性に気づくことができるでしょう。</p> <p>p. 037【考えよう】</p> <p>1) は、日本発祥ではないラーメンが、日本人の「国民食」とまで言われるようになった要因について考えます。クラスの学生の出身国の「国民食」とその理由を比較して、共通点や多様性について話し合うとよいでしょう。</p> <p>2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。</p> <p>〔視点を変えて〕はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出ない場合、例えばインスタントラーメンはラーメンのグローバル化にどのような影響があるか教員が問いかけてみてもよいでしょう</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 ラーメンの歴史やラーメンブームを紹介する短い動画/情報サイト ラーメンをテーマにしたドキュメンタリー動画</p>
	<p>アクティビティ</p>	<p>p. 038【アクティビティ】</p> <p>アクティビティ①では、最初に海外に進出している日本のレストランの名前を挙げてもらいましょう。あまり名前が出ない場合は、インターネットで“外食チェーン店”、“飲食店”、“海外進出”などのキーワードを使って調べさせましょう。クラスの発表を通じて、海外進出した飲食店がどのようなグローバル戦略を展開しているか比較してみましょう。</p> <p>アクティビティ②を選んだ場合、地域にラーメン店がなければ、インスタントラーメンの分析や、ユーザーのロコミがあるオンラインのグルメサイトを調べてもよいでしょう。その際は数名の評価を調べて比較させましょう。活動の後は、実際にグルメサイトに評価や感想を投稿させてもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 海外に進出しているラーメン店の公式サイト 飲食店のロコミサイト</p>
<p>Section2 スシ・ポリス</p>	<p>読解テキスト</p>	<p>【Section2の目標】 Section2では、海外における和食のローカル化とその影響、さらに食をめぐる価値観の違い、食のナショナリズムについて考えます。</p> <p>p. 040【Let's Talk】 寿司の具材を挙げさせることで、日本の本格的な寿司と海外で人気のすしの違いに気づくことができるでしょう。</p> <p>【テキスト】</p>

			<p>先に、「スシ・ポリス」をトピックとする英語の記事を読ませるとテキストが理解しやすくなるでしょう。</p> <p>テキストでは、ローカル化された巻き寿司を例に、「正しい日本食」「正しい日本食レストラン」とは何かを考えます。</p> <p>ローカル化された食べ物は、寿司も含めテキスト上で紹介されたもの以外にたくさんあります。写真などを持ち寄るとイメージが膨らみ、読み物の内容が想像しやすくなるでしょう。</p> <p>p. 041【考えよう】</p> <p>1) 「スシ・ポリス」や「食のナショナリズム」という言葉は、食のグローバル化について考えるきっかけとして捉えるとよいでしょう。ここでは、学生達が価値観の違いに気づくことが大切で、正しい答えを探す必要はありません。</p> <p>2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。</p> <p>〔視点を変えて〕はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。身近な地域や家庭料理を出発点にすると議論が進めやすくなるでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 「スシ・ポリス」に関する英語の記事 農林水産省のサイト：「海外における日本料理の調理技能認定制度」 ローカル化した日本料理の画像</p>
	アクティビティ		<p>p. 041-042【アクティビティ】</p> <p>アクティビティ①では、学生が実際にハイブリッド寿司を作り、自分の文化的背景と一緒に紹介し合います。活動前にクラスで自分の文化的背景を簡単に共有させるとよいでしょう。</p> <p>アクティビティ②は、実際に店に行ってお観察することをお勧めします。発表の際は撮影した写真や動画を入れたパワーポイントを作らせるとよいでしょう。食のグローバル化について自分の考えをまとめておくと最後の章のまとめで意見が書きやすくなるでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 レストランのウェブサイト</p>
	まとめ		<p>p. 043【まとめ】</p> <p>1) はSection1にも2にも対応しています。</p> <p>2) は食のナショナリズムについて自分の経験をもとに意見をまとめます。自由に作文を書かせてもよいですし、賛成か反対の立場を最初に表明してから、理由を述べるように指導すると、書きやすくなるでしょう。</p> <p>3) はSDGsと関連した問いです。あまり抽象的な提案ではなく、学生が日常的に、そして継続的にできることを考えてもらおうとよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 食のナショナリズム／ローカル化などに関する記事</p>

			3) SDGsの関連リンク
第5章 食とメディア作品	Section1 食とアニメ・マンガ	読解テキスト	<p>【全体の目標】 本章ではメディア作品の中の食について考えます。メディア作品では、家族の食卓、料理店での人びとの会話、厨房の料理人の働き方など、さまざまな場面が出てきます。こうした食と人や社会の関係について、学生がメディア作品を通じて考えていくことが本章の目的です。 Section1ではアニメ・マンガ作品、Section2はドラマ、映画作品においてメディア作品の中の食を考えます。</p> <p>p. 044 【Let' s Talk】 アニメやマンガの中の食のシーンとしてどのようなものがあるのか、イメージをもってもらいましょう。特に出なければ、本文中に出てくる『クレヨンしんちゃん』や『となりのトトロ』などの作品紹介の画像や公開動画などを用いて簡単に紹介してもよいでしょう。</p> <p>【テキスト】 『クレヨンしんちゃん』は家庭の食卓のシーンがよく出てくるので、具体的な例や食卓での会話シーンから家族について考えてもよいでしょう。 宮崎駿監督の『となりのトトロ』は、ストーリー、時代背景、療養中の母への想いなど、情報をわかりやすく簡潔に補足するとよいでしょう。 学校を舞台にしたアニメは多く、お弁当を食べるシーン、部活の仲間とお店で食べるシーンなど数多くあります。学生に聞いてみて簡単に紹介させてもよいでしょう。 また、世界の食材を使ったBENTOの実例を紹介してもよいでしょう。</p> <p>p. 045 【考えよう】 1) はお弁当だけでなく、主人公と同じような服を着るなど、様々な形でのメディア作品の再現について話し合ってもよいでしょう。 2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。 [視点を変えて] はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、お弁当がなぜ「母の愛」のシンボルなのか、本文の内容をもう一度確認させてから、家庭の母の役割を考えさせてもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 テキストに出てくる作品の紹介画像、予告動画 再現弁当の画像</p>
		アクティビティ	<p>p. 046-047 【アクティビティ】 アクティビティ①は作品中の食の分析です。学生がマンガやアニメをあまりよく知らない場合は、いくつか有名な作品を挙げて、そこから選ぶようにしてもよいかもしれません。</p>

		<p>アクティビティ②はお弁当の再現です。アニメやマンガに限らず、学生が好きなメディア作品の中のお弁当や食事を再現する、という形でもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 メディア作品の予告動画 メディア作品の分析記事 再現弁当の画像</p>
Section2 食とドラマ・ 映画	読解テキスト	<p>【Section2の目標】 Section2ではドラマ、映画の中で描かれている人生や人間模様と食の関わりについて考えを深めていきます。</p> <p>p. 048 【Let' s Talk】 1. では映画やドラマの中の食についていくつか具体例を考えてもらい、興味を喚起します。そして、2. でテキストの中に出てくる作品の予告動画を見るなどして、イメージを膨らませてからテキストを読むとよいでしょう。</p> <p>【テキスト】 『深夜食堂』は、オンラインで公開されているエピソードがあれば、事前に宿題として見させておいてもよいでしょう。 『きのう何食べた?』はお正月のエピソードの会話のシーンを紹介してもよいでしょう。 『二郎は鮨の夢を見る (Jiro Dreams of Sushi) 』の映画の予告動画は、二郎の生き方やこだわりをイメージできるので活用するとよいでしょう。</p> <p>p. 049 【考えよう】 1) は答えが出ないようであれば、「家族の仲のよさ」「つめたい家庭」「しつけの厳しさ」など、いくつか例を挙げるとよいでしょう。 2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。 [視点を変えて] はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、深夜食堂のような空間は現代社会に必要なかどうか、またその理由などについて教員が問いかけてみるのもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 予告動画、紹介記事等</p>
	アクティビティ	<p>p. 049-050 【アクティビティ】 アクティビティ①はメディア作品の中の食の分析です。グループで準備し、発表では会話を再現させるとよいでしょう。実際に見られる作品から選ぶように伝える必要があります。『深夜食堂』や『きのう何食べた?』で無料で公開しているエピソードがあれば、そこから選んでもよいでしょう。</p>

			<p>アクティビティ②はメディア作品の中の料理人、飲食店の従業員の働き方を分析する課題です。飲食店を舞台にしたメディア作品は数多くありますが、学生が知らない場合は、いくつか例を挙げておくとよいでしょう。アクティビティ③は日本以外の国のメディア作品を見て、日本の職人気質を比べます。相違点、共通点などを話し合ってみましょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 関連作品の予告動画、紹介記事等</p>
		<p>まとめ</p>	<p>p. 051 【まとめ】</p> <p>1) はSection1、またはSection2のどちらでもできる課題です。</p> <p>2) テキストの中の作品、あるいは、学生が発表した作品のどれでもよいです。「役割」という言葉について、先にクラスで話し合うとよいでしょう。</p> <p>3) はSection2に対応しています。社会的なメッセージについては事前にクラスでブレインストーミングをしておくことで学生の考えが広がります。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 メディア作品の役割を説明している読み物 まとめ3) : SDGsの関連リンク</p>
<p>第6章 食と家族とジェンダー</p>	<p>Section1 我が家の味</p>	<p>読解テキスト</p>	<p>【全体の目標】 本章では、食を通じて家族の形やジェンダー問題について考えます。日本語に限らず、様々な言語には男女を区別するなど、男女共同参画の問題に関して考えさせられる言葉があります。それらの言葉の意味とその影響について考えることを目標とします。</p> <p>p. 052 【Let' s Talk】 学生たちから思い出の家庭料理や、それを作った人について様々な例が挙げられるでしょう。家庭料理の思い出がない学生もいるかもしれないので、無理に全員に答えを求める必要はありません。</p> <p>【テキスト】 テキストでは「我が家の味」にかかわるエピソードがいくつか書かれています。言葉の由来についての諸説を紹介してもよいでしょう。「おふくろの味」や「我が家の味」を象徴する料理を調べたり話し合ったりさせてもよいでしょう。</p> <p>p. 053 【考えよう】</p> <p>1) では、現代社会において変わっていく家族の形、またはおひとり様とはどういう意味なのかを話し合ってみましょう。時間があれば家庭の食の問題点である「孤食」「個食」「固食」「粉食」「小食」「濃食」などについて触れてもよいでしょう。</p> <p>2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。</p> <p>【視点を変えて】 はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書</p>

		<p>かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、最初に「おふくろの味」で何を想像するか教員が問いかけてみるのもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 おふくろの味の意味や言葉の由来を説明するサイト 「こしょく」で表される家庭の食の問題を説明するサイト</p>
	アクティビティ	<p>p. 054-055 【アクティビティ】 アクティビティ①では、読み物の導入で話した「我が家の味」とその思い出について詳しく発表します。 アクティビティ②は、「我が家の味」の料理の食レポをします（スマートフォンなどで撮影）。SNSを使っている学生は実際に食レポを発信してもよいでしょう。最初に、例としてSNS上の食レポを見せてみましょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 食レポで使える言葉を紹介するサイト SNS上の食レポ</p>
Section2 「男飯」と 「おふくろの味」	読解テキスト	<p>【Section2の目標】 Section2では、「男飯」や「男の料理」という言葉がもたらすイメージを「おふくろの味」と対比して考えます。</p> <p>p. 056 【Let's Talk】 男の料理に関する各自が持つイメージとその理由を考えさせてから、日本語を含め様々な言語において、男女を差別する言葉をクラスで考えてみることで、無意識のうちに使っている言葉に埋め込まれたステレオタイプに気づくことができます。</p> <p>【テキスト】 テキストでは言葉がジェンダーのステレオタイプに与える影響について書かれています。 読む前に、「男飯」に関する動画やブログを事前に調べさせてみるとよいでしょう。 ワンオペとは和製英語の略語ですが、元の言葉をクラスで考えてみるとよいでしょう。その他、和製英語の略語をいくつか紹介してもよいでしょう。 「お母さん食堂」に関連した動画があれば、クラスで見せると想像しやすいでしょう。</p> <p>p. 057 【考えよう】 1) は、事前に「ジェンダーフリー」の定義を考えさせてから、話し合います。それぞれの学生の見解を自由に述べさせ、クラス内の意見の違いに気づかせることができるよう配慮しましょう。 2) では、様々な言語の例を紹介し合えるようにしましょう。 3) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。</p>

			<p>〔視点を考えて〕はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、「お母さん食堂」の動画をもう一度クラスで見て、なぜこの名前がつけられたと思うか問いかけてみるのもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 「男飯（男メシ）」のレシピ、動画、ブログサイトなど 「男女共同参画社会に関する世論調査」が掲載されたサイト 「お母さん食堂」に関する記事や動画</p>
		アクティビティ	<p>p. 057-058 【アクティビティ】 アクティビティ①のStep1は、家電のCMで家族がどのように描かれているかを分析します。Step2で過去のCMとの比較すると、日本の家族観の変遷を知ることができるでしょう。 アクティビティ②では、実際に身近な人たちに簡単なアンケートを取り、結果を発表します。発表に費やす時間によって、質問項目の追加を検討してもよいでしょう。 アクティビティ③は、ネットなどで家事の分担意識調査の結果を調べ、各自の結果と比べながら意見交換や感想を共有します。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 家電のCM動画 「男女共同参画社会に関する世論調査」が掲載されたサイト</p>
		まとめ	<p>p. 059 【まとめ】 1) はSection1に対応しています。 2) はSection2に対応していますが、Section1での考えも参考にできます。 3) はSDGsと関連した問いです。あまり抽象的な提案ではなく、学生が日常的に、そして継続的にできることを考えてもらうとよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 学生の国の食関係のCM まとめ3) : SDGsの関連リンク</p>
第7章 食と教育と格差	Section1 学校給食の思い出	読解テキスト	<p>【全体の目標】 本章では教育と食の関係を起点に日本における子どもの貧困問題について考えを深めていきます。Section1では、学校給食の状況、Section2では、子どもの貧困と子ども食堂について学生が考えを深めることを目標とします。</p> <p>p. 060 【Let's Talk】 学生が体験したことのある学校での食事について話し合い、日本の給食についての興味を喚起します。</p> <p>【テキスト】</p>

			<p>給食場面の動画、献立の例などを学生に見せるとイメージしやすいでしょう。</p> <p>完食指導については、世代によって異なる経験をしていることを補足するとよいでしょう。</p> <p>p. 061【考えよう】</p> <p>1) は日本の給食に特化せず、自分たちの経験をもとに考えさせましょう。</p> <p>2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。</p> <p>〔視点を変えて〕はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、最初に食育の例を挙げさせてから、食育の可能性、課題について考えさせましょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 給食の動画、献立例など 食育について説明しているサイト</p>
	アクティビティ		<p>p. 062-063【アクティビティ】</p> <p>アクティビティ①は実際の日本の学校の給食の献立を調べ、学生自身の学校での食事と比較させます。前ページの〔考えよう〕で「食育」の是非について話し合っています。アクティビティ①では、表を踏まえて「食育」について学生に考えてもらうとよいでしょう。（この「教師用指導手引き」の第6章で「孤食」「個食」「固食」「粉食」「小食」「濃食」について触れています。ここでもう一度話して言葉の定着を図ってもよいでしょう。）</p> <p>アクティビティ②は第2章の「地産地消」と関係しています。第2章を復習しながら、調査させるとよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 学校給食の事例記事 学校給食に関する分析記事</p>
Section2 こども食堂と 地域のつながり	読解テキスト		<p>【Section2の目標】</p> <p>Section2では子どもの貧困とこども食堂について考えを深めていきます。具体的な地域でのボランティア活動を知り、学生が地域の社会貢献活動に意識が向くようになること、可能であればボランティアに関わっている人に話を聞くことで、興味を喚起させることが目的です。</p> <p>p. 064【Let's Talk】</p> <p>1. でまず、「こども食堂」に関する興味を喚起します。2. で少し視点を広げて、子どもに限らず、経済的に困窮した人々に食事を提供する団体についても話し合うとよいでしょう。</p> <p>【テキスト】</p>

			<p>テキストでは最近急速に増加している「こども食堂」を紹介しながら子どもの貧困について考えていきます。</p> <p>こども食堂の数など、最新情報は補足として伝えるとよいでしょう。子どもの貧困率について、予想させた後で、データを調べさせるとよいでしょう。最初にこども食堂を始めた人については、インタビュー記事が数多く出ていますので、読んでおき、必要に応じて補足するとよいでしょう。</p> <p>p. 065【考えよう】</p> <p>1) は主催者の意見がすでに書かれているので、それに関する学生の賛否を聞くとよいでしょう。</p> <p>2) の「孤食」に関しては、学生自身の経験についても話し合わせるとよいでしょう。</p> <p>2) の参考情報として『孤独のグルメ』というドラマでは、1人で食べることこそ、最高の癒し、としています。学生がどう感じるのか、楽しみとしての孤食、孤立する人々とつながることの大切さの両方を意識させるとよいでしょう。</p> <p>3) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。</p> <p>〔視点を変えて〕はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、最初にスープキッチンなど自分たちの地域の食料配給所が抱える課題を考えてみるように、教員が問いかけてみてもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 子どもの貧困率を示すデータ こども食堂の分析記事</p>
	アクティビティ		<p>p. 065-066【アクティビティ】</p> <p>アクティビティ①は子どもの貧困率の国際比較です。データを探すことは難しくありませんが、最後に学生自身ができること（日常の社会貢献）を考えさせることは本章の目的として大切なものであり、SDGsのさまざまな目標とも関連します。</p> <p>アクティビティ②はこども食堂（大人食堂含む）の比較です。こども食堂、大人食堂といっても、活動形態、運営方法はさまざまですので、比較することで、社会の課題に対して、どのような取り組みがなされているのか、さらに理解を深めることができます。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 子どもの貧困のデータ こども食堂の記事 地域のボランティア情報を集めたサイト</p>
	まとめ		<p>p. 067【まとめ】</p> <p>1) は章のまとめと学生の意見を書く課題です。</p>

			<p>2) は自分の国の状況を分析し自分が貢献できる活動について書く課題です。</p> <p>3) はSDGsと関連した問いです。あまり抽象的な提案ではなく、学生が日常的に、そして継続的にできることを考えてもらおうとよいでしょう</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 ボランティア活動を紹介したり、ボランティアを募集したりしているサイト) SDGsの関連リンク</p>
第8章 食と健康	Section1 長寿と発酵食品	読解テキスト	<p>【全体の目標】 健康によいと言われている大豆や発酵食品は、和食にかかせない食材です。本章では、これらの食材を取り上げ、食と健康について考えます。Section1は、日本人の長寿の理由に触れ、和食にかかせない出汁とかつおぶし、日本の伝統的な発酵食品と言われる納豆について理解を深めます。Section2では、大豆ミートやもどき料理、今後需要が高まるであろうフードテックに関する関心を高めます。</p> <p>p. 068 【Let' s Talk】 健康的と言われている食べ物や発酵食品について理解を促し、興味を喚起します。</p> <p>【テキスト】 テキストでは日本人の長寿率とその原因について書かれています。味噌、酢、しょうゆ、かつおぶしなど和食で使われる調味料の写真を準備して紹介するとよいでしょう。 テキストには出汁が出てきますが、出汁のうま味を知らない学生もいるはずなので、実際にテイスティングしてみるとよいでしょう。(学生は目隠しして、出汁のテイスティングをします。テイスティングの際の食材として、かつおだし、チキンストック、野菜だし、しいたけだし等、手に入るものを準備するとよいでしょう。学生は味と食感を説明し、種類を推測します。)</p> <p>p. 069 【考えよう】 1) はアクティビティ①に対応しています。活動する前に話し合うと興味が喚起できるでしょう。 2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。 [視点を变えて] はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、第3章で取り上げた和食の西洋化を思い起こして考えさせてみるもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 和食の調味料の情報や写真 うま味 (UMAMI) やだしの動画 世界の平均寿命の統計</p>

	アクティビティ	<p>p. 070-071 【アクティビティ】</p> <p>アクティビティ①では発表の際に、学生の出身国の他に [考えよう] の1) で調べた寿命が短い国の食生活も振り返って比較してみるとよいでしょう。</p> <p>アクティビティ②は、検索ワードの例を使って調べさせるとよいでしょう。「意見」の欄は自分の経験も参考にすると書きやすいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】</p> <p>世界の平均寿命の統計 世界の国の食生活の事例 健康食品の事例</p>
Section2 新しい食の形：もどき料理	読解テキスト	<p>【Section2の目標】</p> <p>Section2では、もどき料理やもどき肉に代表される新しい食の形について考えます。</p> <p>p. 072 【Let's Talk】</p> <p>大豆ミートはチェーンのファストフード店でも提供されています。ウェブのメニューを見ながら話してもよいでしょう。</p> <p>大豆ミートやその他の大豆加工食品のCM動画や広告などを見ながら話すともよいでしょう。</p> <p>【テキスト】</p> <p>テキストでは大豆ミートなどに代表されるもどき食品について紹介しています。さらに、食の加工技術が進む中で最近注目されつつあるフードテックについても書かれています。</p> <p>内容確認の2) では、「もどき」という言葉の意味を補足で説明するとよいでしょう。</p> <p>精進料理、もどき料理、代替食品のイメージができるように、写真やCM、広告などを見せるとよいでしょう。また、学生にも授業前に調べさせて共有させてもよいでしょう。</p> <p>クラスの前に、フードテックについての日本語の記事の他に、“food technology” について英語で調べさせてもよいでしょう。</p> <p>クラスにベジタリアンやビーガンの学生がいる場合は、日ごろの食生活について話してもらってもよいでしょう。</p> <p>p. 073 【考えよう】</p> <p>1) では、肉食が起因する環境問題に目を向けてもらうことが目標です。家畜と環境について事前に調べさせてもよいでしょう。</p> <p>2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。</p> <p>〔視点を変えて〕はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、フードテックの是非について教員が問いかけてみるのもよいでしょう。</p> <p>アクティビティ③でフードテックの事例を調べるので、その下調べにもなるでしょう。</p>

			<p>【使えるオンラインリソース例】 家畜と環境問題に関するサイト 精進料理の写真やレシピ 代替食品のCM動画や広告 フードテックの事例</p>
		アクティビティ	<p>p. 073-074 【アクティビティ】 アクティビティ①の、大豆ミートの食品はネットで検索できます。英語のサイトなら、“soy meat”、“soy meat products”等で検索できると指導してもよいでしょう。 アクティビティ②では、体によい料理や食品等を紹介しているウェブサイトや本などを参考にさせるとよいでしょう。 アクティビティ③は、まとめ2)の下調べにもなります。SDGsの目標項目をクラスで再確認してもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 SDGsの関連リンク Soy meat productsの事例 Food technology/フードテックの事例</p>
		まとめ	<p>p. 075 【まとめ】 1) はSection1のアクティビティ①を参考にまとめることができます。 2) はSection2のアクティビティ③を参考にして、SDGsに関連付けることができます。3) にも繋がられるでしょう。 3) は、1) と2) のまとめで、SDGsと関連した問いです。あまり抽象的な提案ではなく、学生が日常的に、そして継続的にできることを考えてもらうとよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 まとめ3) : SDGsの関連リンク</p>
第9章 食と労働	Section1 変化するコンビニと外国人アルバイト	読解テキスト	<p>【全体の目標】 本章では食と労働の関係について考えます。Section1ではコンビニの変化とコンビニで働く人びとの状況を考えます。Section2では、「おもてなし」と「お客様は神様」ということばを通じて日本の接客と過重労働の関係性について考えます。</p> <p>p. 076 【Let's Talk】 コンビニに対する学生の興味を喚起します。国によってはコンビニに馴染みのない学生もいるので、必要に応じて大手コンビニの情報を提示するとよいでしょう。</p> <p>【テキスト】 テキストでは前半はコンビニの変化について述べています。コンビニが力を入れている商品について、写真で紹介するとよいでしょう。コンビニは</p>

		<p>便利な反面、フードロスの問題も指摘されており、第10章で取り上げていますが、この章でもそうした問題に少し触れておいてもよいでしょう。テキストの後半はコンビニで働く外国人スタッフについて書かれています。具体的なコンビニの業務や従業員の研修、外国人スタッフの割合など、簡単に補足するとよいでしょう。</p> <p>p. 077【考えよう】</p> <p>1) はコンビニの労働環境の課題に関して考えます。アクティビティ②で記事や統計の分析をするので、ここではまず学生達にコンビニの労働環境を想像してもらい、意見を出してもらおうとよいでしょう。</p> <p>2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。</p> <p>〔視点を変えて〕はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、このテーマに関する自分の国の状況について共有させてもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 コンビニの分析記事 コンビニの写真や動画 コンビニ業界における外国人スタッフの割合を示すデータ 外国人スタッフの研修情報</p>
	<p>アクティビティ</p>	<p>p. 078-079【アクティビティ】</p> <p>アクティビティ①はコンビニを観察する課題です。力を入れている商品、スタッフの態度など、実際に観察した結果を踏まえて考察します。近くにコンビニがない場合は、コンビニを舞台にした映画やドラマで分析することもできるでしょう。</p> <p>アクティビティ②はコンビニの分析記事を読んでまとめる課題です。記事をまとめて、問題点、対策、自分にできることを挙げてもらいます。Step2は個人的なインタビューの代わりに、コンビニで働いた経験がある学生を集めて座談会を企画することもできます。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 コンビニの分析記事、統計</p>
<p>Section2 「おもてなし」と「お客様は神様」</p>	<p>読解テキスト</p>	<p>【Section2の目標】</p> <p>Section2では日本のお店の接客について「おもてなし」と「お客様は神様」という言葉に焦点をあて、過重労働との関係性について考えを深めていきます。</p> <p>p. 080【Let's Talk】</p> <p>「おもてなし」は東京オリンピック2020を誘致する際に、日本の心として世界に紹介されたことを話してもよいでしょう。日本以外にも「お客様は神様」と似たような言葉があるか聞いてみましょう。</p>

			<p>【テキスト】 テキストには「おもてなし」が日本人の労働意識に与える影響について書かれています。 「おもてなし」の概念がわかりにくそうなら、おもてなしを説明する短い動画を探して見せてもよいでしょう。 茶道の心得を由来とする「おもてなし」の「一期一会」という四字熟語を紹介してもよいでしょう。 ブラック企業のランキングを紹介しているサイトを調べてみてもよいでしょう。</p> <p>p. 081 【考えよう】 1) は「過重労働」が学生自身とも関係する問題であるという意識を持ってもらうための設問です。何をもって過重労働と考えるのか、また、そうした環境にいたときにどんな精神状態になるのかなど、さまざまな点を話し合ってもらいとよいでしょう。 2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。 [視点を変えて] はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、長時間労働の原因や学生の出身国・地域の状況を調べさせてもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 2020年の東京オリンピック招致のための「おもてなし」のスピーチ動画 接客の動画 過重労働に関する統計や記事 ブラック企業ランキングのサイト</p>
	アクティ ビティ		<p>p. 081-082 【アクティビティ】 アクティビティ①は飲食店での従業員のサービスについて自分の体験を通じて分析する課題です。良かったサービス、悪かったサービスとして、どのような言語、非言語の対応があったのか、詳しく話してもらいとよいでしょう。 アクティビティ②は「お客様は神様」がどのような文脈で用いられるのか調べる課題です。学生達が発表した記事を最後に関連付けさせたり、比較させたりするとよいでしょう。 アクティビティ③は過重労働の実態を調べる課題です。学生達が発表した記事を最後に関連付けさせたり、比較させたりするとよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 「お客様は神様」について書かれた記事 外食産業の過重労働について書かれた記事</p>

		まとめ	<p>p. 083 【まとめ】</p> <p>1) はSection1に対応していますが、Section2の「おもてなし」「過重労働」とも関係しています。</p> <p>2) はSection2のまとめです。</p> <p>3) はSDGsと関連した問いです。あまり抽象的な提案ではなく、学生が日常的に、そして継続的にできることを考えてもらおうとよいでしょう</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 まとめ3) : SDGsの関連リンク</p>
第10章 食と社会の課題解決	Section1 食品ロスとSDGs	読解テキスト	<p>【全体の目標】</p> <p>本章では食を通じた社会課題とその解決策について考えます。Section1では食品ロスの問題に焦点を当て、Section2ではソーシャルビジネスを通じた課題の解決策を学び、最終的には自分たちで提案することを目指します。</p> <p>p. 084 【Let's Talk】</p> <p>食品ロスについて注意を喚起し、自分なりのイメージを持ってからテキストを読みます。日本語の「食品ロス」と英語の“food loss”の意味が多少違うので、日本語の「食品ロス」の定義を教えましょう。</p> <p>【テキスト】</p> <p>テキストでは家庭、企業の食品廃棄の問題と、それに対する個人や企業の取り組みについて取り上げ、作る側と使う側の相互責任の重要性を説明しています。</p> <p>食品廃棄について最新のデータで補足するとよいでしょう。</p> <p>テキスト以外にも、家庭での取り組み、企業での取り組みの具体例を学生に挙げてもらい、必要に応じて補足するとよいでしょう。</p> <p>p. 085 【考えよう】</p> <p>1) は農林水産省の資料などイラストが入っていてわかりやすいので補足に使うとよいでしょう。</p> <p>2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。</p> <p>〔視点を変えて〕はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、SDGsの12の「つくる責任」と「つかう責任」の意味を、食に関連づけて考えさせてみるのもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 農林水産省の食品ロスの資料 https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2010/spe1_01.html SDGsのリスト</p>

	アクティビティ	<p>p. 086-087 【アクティビティ】</p> <p>アクティビティ①は食品ロスの問題を自分事として考える課題です。できれば日本の人にも話を聞いてみましょう。</p> <p>アクティビティ②は企業の対策を分析する課題です。日本でも自分の国でもよいので、関心のある企業を調べさせるとよいでしょう。できれば対策だけでなく、その限界についても情報を集められるとよいでしょう。</p> <p>アクティビティ③は学食での食品ロスの状況を観察する課題です。実際に何も対策が取られていない場合は、どうしたらよいのか学生に提案を書かせるとよいでしょう。</p> <p>アクティビティ④ではMOTTAINAI運動について知り、ポスターを作成します。インフォグラフィックを使ったポスターの作り方を事前に示しておくとうよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 企業の食品ロス対策の事例集 インフォグラフィックのリソース</p>
Section2 食のソーシャルビジネスと社会課題の解決	読解テキスト	<p>【Section2の目標】</p> <p>Section2では食を通じたソーシャルビジネスについて考え、実際に事業提案書を作成して発表します。</p> <p>p. 088 【Let' s Talk】</p> <p>ソーシャルビジネスについて認識を促します。</p> <p>【テキスト】</p> <p>テキストではソーシャルビジネスの意義と具体例について書かれています。</p> <p>ソーシャルビジネスに関しては経済産業省の資料で補足するとよいでしょう。</p> <p>ナイチンゲールは、ソーシャルビジネスの先駆者の1人と考えられています。イメージしにくい場合は、ナイチンゲールについて補足するとよいでしょう。</p> <p>日本での食を通じたソーシャルビジネスの例をいくつか取り上げていますが、最新の具体例を示して補足するとよいでしょう。</p> <p>p. 089 【考えよう】</p> <p>1) ではソーシャルビジネスの難しさについて学生に考察させます。1) で話し合った内容は、アクティビティ②の事業提案の留意点にもなります。</p> <p>2) ではテキストで筆者が一番伝えたいことを学生に考えてもらいます。学生が挙げた点に対して、「あなたはどう思いますか」と聞いてみるとよいでしょう。</p> <p>3) はテキストをそのまま受け入れるのではなく、別の視点から考えてみるように指導します。反論、疑問点、またはテキストに書かれていないことを考えさせるとよいでしょう。特にコメントが出なければ、なぜボランティアだけに頼ることが問題なのか、教員が問いかけてみてもよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】</p>

		<p>ソーシャルビジネスの事例集 社会起業家の事例</p>
	<p>アクティ ビティ</p>	<p>p. 089-090 【アクティビティ】 アクティビティ①はソーシャルビジネスの事例を調べます。①は簡単に行い、アクティビティ②の事業提案をメインにするとよいでしょう。 アクティビティ②の事業提案では、あまり壮大な計画で実現が難しいものではなく、学生でもある程度のファンディングがあれば、実際に行えそうなことを提案させるとよいでしょう。また、学生によるクラウドファンディングの実例を示し、クラウドファンディングの目標額も含めて、具体的な提案を作らせるとよいでしょう。最後の発表会は、ファンディングのためのプレゼンテーションの場とし、説得力のあるプレゼンテーションになるように指導するとよいでしょう。</p> <p>【使えるオンラインリソース例】 ソーシャルビジネスの事例集 クラウドファンディングのデータベース 学生によって企画されたクラウドファンディングの実例集</p>
	<p>まとめ</p>	<p>p. 091 【まとめ】 1) Section1と対応しています。 2) Section2と対応しています。 3) 事業計画書と関連した問いです。</p>